

# ラーニングテクノロジー開発室

## ニュースレター

### WebCT活用授業レポート

### 「英語コミュニケーション」におけるWebCTの活用



今回は、理工学部総合基礎科目の佐藤直史先生にお話をうかがいます。

**LT** どのようにお使いになっていらっしゃいますか。

**佐藤先生** 2004年度より、「英語コミュニケーション」という科目で使っています。初期のころは学期あたり2コマを、WebCTを用いた授業にあてていました。少しずつコンテンツを増やし、導入から5年目を迎えた今期には、学期あたり4コマ（通年8コマ）のコンテンツを蓄えることができています。「英語コミュニケーション」は、教職課程履修者に向けた科目として新設され、学習者が、自分の伝えたいことを表現し、発信できるように、コミュニケーションを重視した実践的な内容となっています。上田講師も参加し、チームティーチングとして進めています。

取り上げるテーマとしては、環境に配慮したトヨタやホンダのハイブリッド・カーについての米国加州の議会の動きだとか、完成まで100年かかるといわれるネイティブ・アメリカンの巨大な彫像の話題など、自らの考察を深めかつ興味を持つことができるテーマで、加えて異文化の理解につながるであろうものを選んでいきます。日本文化の発信の視点としては海外でも最近話題になっている「タタミ」や「フロシキ」などもとりあげて興味をひいています。このような授業の、いわゆるメインディッシュのほかに、学習を飽きさせないためにという配慮から娯楽性や創作性を取り込んだ副次的な教材も用意しました。これらと主要なテーマとの関連性を持たせている点が特徴です。

**LT** お使いになっていかがでしょうか。

**佐藤先生** WebCTでの教材の提示は、学生の学習意欲をかきたて、持続させる面で有効だと考えています。何度でもアクセスできるので、教材を見直したり、

じっくりと考えたり、背景などを調べたりすることができます。また、私が撮った写真を含め、時間と空間を越えた非日常的な意外性を持つ教材を提示できるのも魅力です。

一方で、Quizなどの答えがすぐに学生に示せるのもよいですね。ひとつ例を挙げると、カナダの漁業関係の企業に取材した教材を取り上げた時には、周辺の知識として、WebCTの小テスト機能を使って、いわし、マグロ、たこ、さば・・・などの魚の名前を問いかけてみました。学生の興味がぐっとひきつけられたのはいうまでもありません。

もうひとつ、学習の柔軟性という点も重要なポイントです。教育実習や介護実習に行っていて、授業に出られなかった学生に対して、教材を提示したり、課題の提出先として使うことができ、現実の制約を乗り越えられるというメリットがあると考えます。

**LT** 今後は、どのような可能性をお考えでしょうか。

**佐藤先生** 将来的には、iPodなどの携帯用プレイヤーと連携して音声を用いた複合的な使い方ができるとも思っています。最近では、BBCやCNNといったニュース・プログラムの中に適切なものがあるので、それらを教材として活用できる可能性があるか、興味のあるところです。

**LT** 学生の興味をひきつけるだけでなく持続させる工夫が、授業プログラムやコンテンツに巧みに織り込まれている様子が、よくわかりました。どうもありがとうございました。

英語コミュニケーションでの授業実践は、第14回、第24回、第36回のLTセミナーで話題の提供をしていただき、年報の第2巻、第3巻にもまとめていただいています。

## お知らせ

### ◆ 私情協主催イベント 発表者募集中

私立大学情報教育協会主催の以下のイベントで、発表者募集が始まっています。奮ってご発表ください。詳細は私立大学情報教育協会のサイトをご覧ください。

#### ・ 全国大学IT活用教育方法研究発表会

開催日：7/5(土) 申し込み締切：5/7必着

<http://www.juce.jp/LINK/houhou/>

#### ・ 大学教育・戦略情報大会

開催日：9/3(水) 申し込み締切：5/7必着

<http://www.juce.jp/LINK/taikai/08happyo/>

### ◆ 第1回Ja Sakaiカンファレンス 報告

Ja Sakai Communityの主催する第1回Ja Sakaiカン

ファレンスが、2008年3月26日に法政大学九段校舎において開催されました。

Sakaiは、WebCTのようなコース管理システムの機能を包含する、大学での教育・研究活動のための米国発の情報基盤システムで、オープンソースソフトウェアという特徴を生かし全世界に普及しつつあります。この流れに呼応して、日本人による日本人のための日本語版Sakaiの開発と我が国での普及を目指す「日本語版 Sakai コミュニティ - Ja Sakai -」が立ち上げられ、今回はそのキックオフカンファレンスという位置付けでした。

本カンファレンスについての詳しい報告はLT開発室のウェブサイトをご覧ください。

**Tips** ～ コースコンテンツのアイコンの並び替えを簡単に行う ～

WebCTのコースコンテンツの表示方法には、「基本表示」と「詳細表示」という2つの方法があります。これらの切り替えは「ページオプション」で行います。

「詳細表示」では、アイコンの並び替えやフォルダへの移動などの操作が、複数のコンテンツに対してまとめて行えるため、「基本表示」の時よりも簡単にコンテンツの整理を行えます。




基本表示




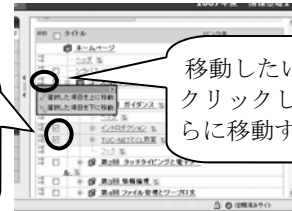
詳細表示

☆フォルダ内でのアイコンの移動


「詳細表示」で、移動したいコンテンツにチェックをいれ、移動したい先の頭にある  アイコンをクリックします。ここで、「選択した項目を上へ移動」か「選択した項目を下へ移動」を選ぶと、その項目の前後にコンテンツを移動させることができます。

☆フォルダ間でのコンテンツの移動

「詳細表示」でフォルダにコンテンツを移動するには、フォルダの頭についている  アイコンをクリックします。あとは、前項と同様の手順で、移動先にフォルダの中を指定すれば、コンテンツを移動できます。



移動したい項目にチェックを入れる

移動したい先の  をクリックし、上下どちらに移動するかを選択

**帝京大学WebCTサポートサイトがオープン**

このサイトには、教職員のWebCT利用のための各種申請方法、WebCTの利用マニュアル、FAQ、活用授業への支援内容などが掲載されています。ぜひご利用下さい。

<http://www.lt-lab.teikyo-u.ac.jp/webct-ss/index.php>

**ラーニングテクノロジー開発室新室長のご紹介**

2008年3月に本学を退職した武井恵雄教授よりLT開発室長を引き継ぎ、今4月に本学理工学部ヒューマン情報システム学科の熊澤弘之教授が新室長(兼任)に就任しました。

熊澤新室長は、学生の携帯電話と連携する情報システムを独自開発して出席登録・管理の効率化や学生参加型の授業実践をしたり、全担当科目で、収録した講義ビデオを学習項目ごとに丁寧に整理してWebCTに載せるなど、ラーニングテクノロジー(LT)とその基盤となる情報通信技術への造詣が深い上に、現場でのLT活用について豊富な経験があります。

新室長を迎えたLT開発室は、これまで通り、WebCT活用支援や教材開発などの教職員の教育活動の技術的サポート、およびLTや独自教材の研究開発を継続し、「確実に授業がわかる」、「どの授業もよくわかる大学」の実現を目指します。

■ 室長からのごあいさつ

私この度武井恵雄前LT開発室長の後任を引き受けることになりました熊澤です。どうぞよろしくお願いたします。LT開発室は従来より「わかる授業」の実現のために、「いつでも、どこからでも、学びたいときに学べる学習システム」づくりを目指して精力的に活動してきました。私もこれまで微力ながらこのeラーニングシステムを利用していかに分かりやすい授業を展開していくかという努力をしてきました。これからは、これまでの利用者としての経験を生かし、教職員の方々、学生の皆さんにどうすれば広く利用してもらえるか、どうすれば使いやすいシステムにできるかに尽力していきたいと思えます。また従来にも増して帝京大学全体で広く利用してもらえるよう、普及活動を進めていきたいと考えておりますので、ご指導、ご協力の程よろしくお願いたします。

**編集後記** 大学内でタンポポやつくしをよく見かけるようになってきました。花の香りを感じると春だなあと心がほんわかと和みますね。さて、年度の変り目ですので、昨年度の報告をいたします。昨年度はLTコンサルテーションが21件、WebCTを活用した授業が172科目ありました。今年度もみなさまからのご連絡をお待ちしております(及川)



ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 202室 028-627-7243 (直通)

◇一般的なお問合せ: LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート: LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇室員: 熊澤 弘之(室長), 渡辺 博芳, 古川 文人, 高井 久美子, 及川 芳恵, 柳田 京子

